

2020年1月20日
日本郵便株式会社

特殊切手「美術の世界シリーズ 第1集」の発行

日本郵便株式会社（東京都千代田区、代表取締役社長 衣川 和秀）は、魅力ある名作絵画などの美術品を題材として特殊切手「美術の世界シリーズ」を発行します。

第1集は「青の世界」がテーマです。

1 発行する郵便切手の内容

名 称	美術の世界シリーズ 第1集	
発 行 日	2020年3月19日（木）	
種 類	63円郵便切手（シール式）	84円郵便切手（シール式）
切手画像	別紙のとおり	
シ ー ト 構 成 ・ 意 匠	 <ol style="list-style-type: none"> (1) 「染付 兎 水葵図大皿」(部分) (伊万里焼) (2) 「四季花鳥図巻」(部分) 酒井抱一 (3) 「富嶽三十六景 甲州石班沢」(部分) 葛飾北斎 (4) 「待月」上村松園 (5) 「紫陽花図花瓶」(七宝)(部分) 並河靖之 (6) 「湖畔」(部分) 黒田清輝 (7) 「雲中富士」(部分) 横山大観 (8) 「ペガサス、岩上の馬」 オディロン・ルドン (9) 「ヴァランティエヌ・テシエの肖像」 (部分) マリー・ローランサン (10) 「睡蓮」クロード・モネ 	 <ol style="list-style-type: none"> (1) 「染付兎水葵図大皿」(伊万里焼) (2) 「四季花鳥図巻」(部分) 酒井抱一 (3) 「富嶽三十六景 甲州石班沢」 葛飾北斎 (4) 「アレタ立に」竹内栖鳳 (5) 「紫陽花図花瓶」(七宝) 並河靖之 (6) 「湖畔」黒田清輝 (7) 「雲中富士」(部分) 横山大観 (8) 「グラン・ブーケ (大きな花束)」 オディロン・ルドン (9) 「ヴァランティエヌ・テシエの肖像」 マリー・ローランサン (10) 「睡蓮」クロード・モネ
所 蔵 元	<ol style="list-style-type: none"> (1) (2) (6) (7) 東京国立博物館 (3) すみだ北斎美術館 (4) 足立美術館 (5) 清水三年坂美術館 (8) ひろしま美術館 (9) ポーラ美術館 (10) アサヒビール大山崎山荘美術館 	<ol style="list-style-type: none"> (1) (2) (6) (7) 東京国立博物館 (3) すみだ北斎美術館 (4) 高島屋史料館 (5) 清水三年坂美術館 (8) 三菱一号館美術館 (9) ポーラ美術館 (10) 国立西洋美術館

売 価	630 円 (シート単位で販売します。)	840 円 (シート単位で販売します。)
小切寸法	(1) ~ (3) 縦 28.0 mm × 横 26.5 mm (4) 縦 26.0 mm × 横 25.0 mm (5) (9) 縦 30.0 mm × 横 21.5 mm (6) 縦 30.0 mm × 横 24.5 mm (7) 縦 25.2 mm × 横 30.5 mm (8) 縦 31.0 mm × 横 21.5 mm (10) 縦 25.0 mm × 横 26.5 mm	(1) 縦 35.4 mm × 横 30.8 mm (2) (3) (7) 縦 30.0 mm × 横 35.5 mm (4) (5) 縦 45.0 mm × 横 23.0 mm (6) 縦 31.5 mm × 横 32.5 mm (8) 縦 38.5 mm × 横 32.5 mm (9) 縦 38.5 mm × 横 27.5 mm (10) 縦 38.5 mm × 横 33.5 mm
印面寸法	(1) ~ (3) 縦 25.0 mm × 横 23.5 mm (4) 縦 23.0 mm × 横 22.0 mm (5) (9) 縦 27.0 mm × 横 18.5 mm (6) 縦 27.0 mm × 横 21.5 mm (7) 縦 22.2 mm × 横 27.5 mm (8) 縦 28.0 mm × 横 18.5 mm (10) 縦 22.0 mm × 横 23.5 mm	(1) 縦 32.1 mm × 横 27.0 mm (2) (3) (7) 縦 27.0 mm × 横 32.5 mm (4) (5) 縦 42.0 mm × 横 20.0 mm (6) 縦 28.5 mm × 横 29.5 mm (8) 縦 35.5 mm × 横 29.5 mm (9) 縦 35.5 mm × 横 24.5 mm (10) 縦 35.5 mm × 横 30.5 mm
シート寸法	縦 86.0 mm × 横 187.0 mm	縦 127.0 mm × 横 187.0 mm
助言・監修	高岸 輝 (東京大学大学院人文社会系研究科 准教授)	
切手デザイン	楠田 祐士 (切手デザイナー)	
版式刷色	オフセット 6 色	
発行枚数	1,000 万枚 (100 万シート)	2,500 万枚 (250 万シート)
販売場所	<ul style="list-style-type: none"> ・全国の郵便局など ・「郵便局のネットショップ」(注) ・銀座郵便局での郵便振替による通信販売 	

2 発行する郵便切手のデザインについて

美術の世界シリーズの第一弾は、「青の世界」です。洋の東西を問わず、美術のなかで青は高貴な色とされ、青色の顔料として用いられたラピスラズリは、高価な素材でした。近代のヨーロッパで青色の絵の具が化学的に調合できるようになると、世界中に広がりを見せ、葛飾北斎の浮世絵など庶民向けの絵画にも用いられるようになりました。空や水景だけでなく、遠望した山岳など青のイメージは風景の中に欠かせないものといえます。

今回は 19~20 世紀の、日本絵画と工芸、ヨーロッパ絵画の中から、青が特徴的な作例を選びました。同じ青でも、濃淡の変化や他の色彩との対比によって、まったく異なる表情を漂わせます。季節や時間によって変化する水面や空気の表情を、東西の芸術家たちはそれぞれの感覚でとらえ、表現しています。

〈63 円シート〉

(1) 「染付兎水葵図大皿」(伊万里焼) 東京国立博物館蔵 (Image: TNM Image Archives)

伊万里焼は、現在の佐賀県で江戸時代の初めから生産された磁器です。酸化コバルトの絵の具で白地の磁器に絵を描き焼成する技法は、そめつけ染付と呼ばれます。本作は江戸時代後期のもので、やや淡い青色を地とし、ここに白色で流水と水葵、二羽のウサギを配しています。渦を巻くようにデザインされた流水、可憐な水葵、擬人化されたようなウサギの表情が見どころです。

(2) 「四季花鳥図巻」酒井抱一 東京国立博物館蔵 (Image: TNM Image Archives)

酒井抱一 (1761~1829) は姫路藩主の子として江戸に生まれ、各種の絵を学んだ後、尾形光琳の

作風に傾倒しました。光琳風のデザイン性あふれる構図、明快な彩色に特徴があり、彼とその後継者を江戸琳派と呼びます。本図に描かれた燕子花の花の形や鮮やかな青色は、光琳の代表作「燕子花図屏風」(根津美術館蔵)の描写を下敷きとしています。

(3)「富嶽三十六景 甲州石班沢」葛飾北斎 すみだ北斎美術館蔵

(画像提供：すみだ北斎美術館／DNPartcom)

葛飾北斎(1760～1849)は、約70年の画業の中で、日本絵画のさまざまな流派や西洋画法を取り入れ、多彩な画風を生み出しました。作品では『北斎漫画』と呼ばれる絵手本など、多くの画業を展開しました。「富嶽三十六景」は、1831(天保2)年頃に出版された代表作で、全46図からなります。

「甲州石班沢」は漁の様子を描いたものとされます。青色の濃淡によって川岸の奇岩と複雑な波頭、平行に描かれた遠景の水流、霞んだ富士山の稜線を表現し、張り詰めた空気をとらえています。

(4)「待月」上村松園 足立美術館蔵

上村松園(1875～1949)は近代を代表する女性日本画家です。凜とした優美な女性を多く描きました。本作は、晩年の1944(昭和19)年に描かれたもので、紗の青い着物と、絞りの帯が美しく調和しています。シンプルな構図で、空を見上げる女性の視線や広々とした空間が豊かな情趣を漂わせています。

(5)「紫陽花図花瓶」(七宝)並河靖之 清水三年坂美術館蔵

並河靖之(1845～1927)は近代に活躍した七宝の大家です。存命中は、皇室技芸員に任命され、皇室関係の制作も行いました。並外れた精密なテクニックによって、近年、再評価されています。透明感のある黒を背景に、ごく淡い青の紫陽花を浮かび上がらせることで、遠近感と立体感を見事に表現しています。

(6)「湖畔」黒田清輝 東京国立博物館蔵(画像提供：東京文化財研究所)

黒田清輝(1866～1924)は1884(明治17)年に渡仏、現地の画家ラファエル・コランに師事し、外光をとりこんだ清爽な画風を身に着けて帰国しました。東京美術学校の西洋画科教授として後進の指導にもあたり、文化財行政にも携わりました。「湖畔」は1897(明治30)年、箱根の芦ノ湖に避暑に訪れた黒田が、照子夫人をモデルに描いたものです。着物、湖水、遠山はいずれも淡い青で描かれ、夏の涼やかな風が伝わってくるようです。

(7)「雲中富士」横山大観 東京国立博物館蔵(Image: TNM Image Archives)

横山大観(1868～1958)は、東京美術学校(現在の東京芸術大学)の一期生として岡倉天心や橋本雅邦の指導を受け、近代日本画の第一線で多様な画風を展開しました。1913(大正2)年頃に描かれた本図は、金地に白雲と濃い青の富士山のみを単純化して描いており、琳派のデザイン性を強く意識した作例です。頂部の残雪が、青い稜線を際立たせています。

(8)「ペガサス、岩上の馬」オディロン・ルドン ひろしま美術館蔵

オディロン・ルドン(1840～1916)は、フランスで活躍した画家です。同時代に流行した印象派の鮮やかな色彩には批判的で、はじめはモノクロームや重い彩色を試みましたが、晩年には幻想的な彩色へと変化しました。「ペガサス、岩上の馬」は、1907～10年頃に描かれたパステル画で、エメラルドグリーンと青色の空を背景に、白色のペガサスが輝くようにたたずんでおり、神話的な美しさにあふれています。

(9) 「ヴァランティエヌ・テシエの肖像」 マリー・ローランサン ポーラ美術館蔵

(画像提供：ポーラ美術館 / DNPartcom)

マリー・ローランサン（1883（1885年の説もあり）～1956）は、フランス・パリで活躍した女性画家です。甘美な人物描写、パステルカラーの幻想的な彩色に特徴があります。本作は1933年、女優ヴァランティエヌ・テシエをモデルに描いたもので、紫に近い青色の衣を身にまとい、舞台上演技するかのようなポーズをとっています。透けた衣から見える白い肌が、画面全体に軽快な印象を与えています。

(10) 「睡蓮」 クロード・モネ アサヒビール大山崎山荘美術館蔵

クロード・モネ（1840～1926）はフランスの印象派を代表する画家です。晩年、パリ郊外のジヴェルニーのアトリエ兼自宅に日本風の庭園を設け、池に浮かべた睡蓮すいれんを観察して連作を描きました。本作は、日本国内にある「睡蓮」としては屈指の大作で、緑がかった池に、青紫色の睡蓮の葉が溶け込むように描かれ、赤やピンクの花がアクセントとなっています。

〈84円シート〉

(4) 「アレタ立に」 竹内栖鳳 高島屋史料館蔵

竹内栖鳳たけうちせいほう（1864～1942）は京都で生まれ、江戸中期からこの地で流行した円山四条派まるやましじょうはの流れをくんでいます。綿密な写生をベースに、西洋画の空気感を取り入れた画風で日本画に新風を吹き込みました。1909（明治42）年に制作された本作は、青い着物と扇面の赤・金の対比が効果的です。

(8) 「グラン・ブーケ（大きな花束）」 オディロン・ルドン 三菱一号館美術館蔵

オディロン・ルドン（1840～1916）が1901年に描いた本作は、フランスの貴族が城館の食堂の装飾として注文した連作のうち的一点です。パステルによって描かれた柔らかな色彩の花々が、深い青色の花瓶からあふれ出るように描かれています。青の花瓶は画面の中央にあって安定感を与えるとともに、暖色の花々を引き立てる役割を果たしています。

(10) 「睡蓮」 クロード・モネ 国立西洋美術館蔵 松方コレクション (Photo: NMWA/ DNPartcom)

クロード・モネ（1840～1926）による「睡蓮」の連作のひとつで、国立西洋美術館にある松方コレクションの代表作です。本作は1916年に描かれたもので、池の水面が空の青色を映し出し、ここに豊かな色彩で表現された睡蓮の葉と花が浮かんでいます。季節や時間の移ろいの中で表情を変えていく、水と空気の微妙な色合いを、モネはキャンバスに描き留めようとしていました。

3 美術作品の所蔵元について

各美術作品の所蔵元の情報は次のとおりです。（切手に関する照会は所蔵元ではなく、弊社お問い合わせ先までお願いします。）

なお、作品は常に展示されているとは限りません。

(1) 東京国立博物館

住所：〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9

HP：<https://www.tnm.jp/>

※黒田清輝「湖畔」について

東京文化財研究所 黒田記念館

住所：〒110-8712 東京都台東区上野公園 13-9

HP：<https://www.tobunken.go.jp/kuroda/>

(2) すみだ北斎美術館

住所：〒130-0014 東京都墨田区亀沢 2-7-2

HP：<https://hokusai-museum.jp/>

(3) 足立美術館

住所：〒692 - 0064 島根県安来市古川町 320

HP：<http://www.adachi-museum.or.jp/>

(4) 清水三年坂美術館

住所：〒605-0862 京都府京都市東山区清水寺門前産寧坂北入三丁目 337-1

HP：<http://www.sannenzaka-museum.co.jp/>

(5) ひろしま美術館

住所：〒730-0011 広島県広島市中区基町 3-2

HP：<https://www.hiroshima-museum.jp/>

(6) ポーラ美術館

住所：〒250-0631 神奈川県足柄下郡箱根町仙石原小塚山 1285

HP：<https://www.polamuseum.or.jp/>

(7) アサヒビール大山崎山荘美術館

住所：〒618-0071 京都府乙訓郡大山崎町銭原 5-3

HP：<https://www.asahibeer-oyamazaki.com/>

(8) 高島屋史料館

住所：〒556-0005 大阪府大阪市浪速区日本橋 3-5-25 高島屋東別館 3 階

HP：<https://www.takashimaya.co.jp/shiryokan/index.html>

(9) 三菱一号館美術館

住所：〒100-0005 東京都千代田区丸の内 2-6-2

HP：<https://mimt.jp/>

(10) 国立西洋美術館

住所：〒110-0007 東京都台東区上野公園 7-7

HP：<https://www.nmwa.go.jp/jp/index.html>

4 その他

通信販売などの販売概要、郵趣のための記念押印サービスについては、弊社 Web サイトでお知らせします。

【注釈】

(注)「郵便局のネットショップ」への掲載は、2020年3月19日(木)の予定です。

【お客さまのお問い合わせ先】

日本郵便株式会社

お客様サービス相談センター

0120-2328-86（フリーコール）

携帯電話から 0570-046-666（有料）

<受付時間 平日 8：00～21：00

土・日・休日 9：00～21：00>